

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 5 月 16 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	21.1	- kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	30.8	6.39 kPa g	A系： 0.03 Vol%
		給水系：約 1.7 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m ³ /h	27.7	0.25 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)
計器不良に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.0
2号機	循環冷却システム	運転中	21.4
3号機	循環冷却システム	停止中	19.5
4号機	循環冷却システム	運転中	21.5

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

[3号機]

・H26/4/19 ~ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23 ~ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23 ~ 6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00 ~ 土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00 ~ 月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65 に十分な余裕を持った 45 を超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29 以下として管理する。

< 最新の作業実績 >

5/15 6:27 冷却系停止(停止時の温度:19.5)

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	4/24 10:34 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/16 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中 ^{*1}	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/5/19 ~ 28 第二セシウム吸着装置(サリー)において、ブースターポンプの点検を行うため、当該装置を停止予定。
なお、サリー停止期間中は、キュリオンを起動して処理を行う予定。

< 5. その他 >

・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27 より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍

結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 挿入が完了した凍結管について凍結を開始し、4/26 に全 17 本の凍結管の挿入作業、そのうち 13 本のパッカー設置作業が終了したことから、4/28 凍結管全 17 本の凍結運転を開始した。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/5/15 9:20 頃 5, 6号機北側Fタンクエリア滞留水処理装置(淡水化装置)より水が漏れていることを当社社員が発見。同日 9:21 に当該装置を停止し、9:33 に漏えいが停止したことを確認。なお、処理装置自体は専用のトレーラーに積載されており、漏れた水はトレーラー下部に設置している堰内の鉄板上に濡れている程度でとどまっている。漏えいした範囲は、約 10m × 約 5m × 約 1mm。

その後、淡水化装置周辺の堰内の雨水に混入した可能性があることが確認され、漏えい量については雨水の放射能濃度を分析した結果より約 2m³と推定。淡水化装置送水ポンプ下流側に設置されている安全弁排出ラインのホースが破損したことにより、漏えいしたことを確認。

堰内に漏えいした水については 15:35 から 19:10 にかけて回収を完了。

また、漏えい水の分析結果は以下の通り。

・セシウム 134: 2.970 × 10² Bq/L

・セシウム 137: 7.746 × 10² Bq/L

・全ベータ : 1.494 × 10⁴ Bq/L

・H26/1/18 14:40 頃 3号機原子炉建屋瓦礫撤去用ロボットのカメラ画像を確認していた当社社員が、3号機原子炉建屋1階北東エリアの主蒸気隔離弁室の扉付近から、水が、当該扉近傍に設置されている床ドレンファンネル(排水口)に幅約 30cm で流れ込んでいることを発見した。

5/15 当該室内の調査を行った結果、主蒸気配管(D)の伸縮継手周辺から鉛筆2~4本程度の漏えいを確認。なお、主蒸気配管(A・B・C)・主蒸気系ドレン配管からの漏えいは確認されていない。

・H26/4/24 11:13 頃 一般焼却炉建屋において、協力企業作業員(男性)が作業中に指を挟み負傷。入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があるため、11:29 に救急車を要請。なお、当該作業員に身体汚染は確認されていない。

11:54 医師による診断の結果、「右手小指末節骨開放骨折」の疑いと診断されたため、入退域管理棟救急医療室を出発し、急患移送車にて富岡消防署(救急車待機場所)へ搬送。

その後、福島労災病院にて受診。

5/16 福島労災病院より診断書が発行され「右小指末節骨開放骨折」と診断された。

[H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果]

< トピックス >

・H26/4/14 ~ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

・H26/5/12 11:50 ~ 焼却工作建屋への滞留水の流入に関して、5/9 焼却工作建屋への仮移送設備の設置、および焼却工作建屋からプロセス主建屋の移送ラインの漏えい確認が終了。焼却工作建屋滞留水のうち工作建屋側からプロセス主建屋への移送について、5/12 11:50 より開始。また、移送開始後に漏えい等の異常がないことを確認。なお、移送については5月下旬頃まで行う予定(移送は平日の日中のみ実施)で、移送中は監視員を配置して常時監視。

< 最新の水位 >

・各建屋内の滞留水の深さについては、常設水位計による監視において、プロセス主建屋への移送後の水位と比較し、焼却建屋では 1.8cm の上昇。

・各建屋内の滞留水の深さについて大きな変化は確認されていない。

[5/16 14:00 時点の各建屋水深]

焼却建屋: 深さ 19.4cm(4/14 移送停止後と比較し、1.8cm 増)

工作建屋:5/12 よりプロセス主建屋へ随時移送を実施していたが、5/16 10:30、回収作業が完了したため移送を終了。

<最新のサンプリング実績>

- ・大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上